



43



### 終わりに

前立腺肥大・嚢胞は去勢をしていない6歳以上の雄犬で多く認め

られ、9歳までには90%が発生する病気で、きちんとした予防的処置を行えば、行かない場合は、便が出にくい、血尿が出るなどの症状があったら、早めに動物病院を受診するようにしてください。

細菌感染を伴ってしまい「前立腺炎」「前立腺膿瘍」になると命に関わりますし、まれではありますが「前立腺がん」である場合もあります。様子を見ることは極めて危険ですので、早期の受診が重要です。

【次回は1月20日に掲載予定です】

身体検査をして診断します。重要なのが、肛門から指を入れて前立腺や直腸やリンパ節を触診する「直腸検査」です。

このほか尿検査、血液検査、血液ガス検査、尿の培養検査、レントゲン検査、腹部超音波検査、前立腺液検査、培養検査、前立腺に針を刺して細胞を調べる細胞診検査を行います。

診断を適切に行い、確定診断を得ることができたなら治療に移ります。

①最も有効で必須の治療が、去勢手術による男性ホルモンの減少です。

②嚢胞や膿瘍がある場合は、エコーガイド下で針を刺して中の液体を全部抜き、そこに液体貯留や感染を抑える液体を注入する方法を取ります。

③同時に感受性試験で効果のある抗生物質療法を行います。

④ショックがあれば、法と輸液療法を行います。

⑤単なる前立腺肥大であれば、去勢手術のみで完治しますが、前立腺炎、嚢胞、膿瘍になると去勢手術だけでは

## 生後5〜6カ月齢の去勢手術で予防を

### 診断

### 治療

### 前立腺の病気

**前立腺肥大**  
尿や便が出にくくなる

**前立腺嚢胞**  
袋状のものができる  
血尿、食欲不振

**細菌感染**

**前立腺炎**  
発熱、元気消失、血尿、排尿障害、嘔吐



**前立腺膿瘍**  
膿がたまる  
敗血症、腹痛、ショック症状など

**炎症の慢性化**  
膿瘍が破裂すると腹膜炎に

**緊急手術**

### 原因・症状

前立腺の病気が、がんを除いて未去勢により起ります。

アンドロゲンという男性ホルモンが過剰になり、年齢を重ねるうちに前立腺が肥大して起ります。

前立腺が大きくなると、便が出にくくなり、頻りに排尿が困難になったりする症状が出てきます。更に袋状の嚢胞

が入院して抗ショック療法や、腹膜炎があれば緊急の開腹手術を行います。

治りません。大きなればなるほど症状も重篤になり、治療もより困難になります。

⑦従って、最良の治療は「生後5〜6カ月齢での予防的去勢手術」です。ただし、前立腺がんは、去勢手術では予防効果も治療効果もありません。

## 前立腺肥大・前立腺炎・前立腺膿瘍・前立腺嚢胞

執筆者・岡谷動物病院 佐々木厚さん

(のうぼつ)ができて大きくなったりすると、血尿や食欲不振が起きてきます。

そこに細菌感染が起きると前立腺炎が起きて、発熱、元気消失、血尿、排尿障害、嘔吐(おうと)などの急性症状が発症してきます。慢性化すると膿(うみ)が充満した膿瘍(のうよう)が形成され、敗血症や腹痛、ショックなどのより重篤な症状を起してきます。膿瘍が破裂すると腹膜炎を起し、緊急手術が必要になることもあります。



このコーナーへのご意見、ご感想をお寄せ下さい！  
ご意見、ご感想、岡谷動物病院の佐々木先生に聞いてみたいことなどをお寄せ下さい。住所、名前、電話番号を明記し、郵送(〒394-0028岡谷市本町3の8の30)、ファクス(0266-22-4444)、Eメール(mail@shimin.co.jp)のいずれかで、市民新聞グループ編集局「見る」係へお送りください。  
バックナンバーは岡谷動物病院ホームページでご覧いただけます。